

岩城小で「モーモースクール」 **乳搾り上手にできたよ**

児童 52 人、牛と触れ合う



牛の生態や牛乳の特徴を学ぶ「わくわくモーモースクール」が26日、由利本荘市岩城赤平の岩城小学校で開かれた。5、6年生52人が牛に触れたり、バターを作ったりして酪農への理解を深めた。県牛乳普及協会の主催。

同市西目町の新林牧場の柴田睦代表理事が雌のホルスタイン（5歳）I頭を連れて来校。玄関前に姿を現すと、児童は体重約600キロの巨体や大きな鳴き声に驚いた置いた。

搾乳体験で児童は、柴田代表理事から「指で輪を作り上の指から動かす」とアドバイスを受けながら、牛の乳頭を優しく握って牛乳を搾り出した。牛に直接触れ、「温かい」「かわいい」などと感動した様子だった。

バター作りは県牛乳普及協会のスタッフ3人が講師を務めた。児童は容器に脂肪分45%の「フレッシュクリーム」を入れて上下に力強く振り、割り箸でかき混ぜてバターに仕上げた。完成後はクラッカーに付けて味わった。

5年生の今花菜子さんは「牛と人間の生態の違いが分かった。これから牛乳を大切に飲みたい」と話した。

スクールは、酪農に関心を持ってもらおうと毎年開催している。本年度は岩城小のほか、横手市の醍醐小でも実施した。（進藤麻斗）

（令和5年10月27日（金） 秋田魁新聞より一部抜粋）

